



地震・津波にそなえて



住吉・城東地区自主防災会連合会 会長 濱 泰臣 (泰心商事)

安心して暮らせる地域のきずな、それは助け合いです。その為に防災についてももう一度考えましょう。大切なのは、皆様のご家庭で災害の発生に備えて日頃からの準備をしておくことです。まずはいつ来るか分からない地震や津波に備えて災害から身を守るために家族で防災会議を開きましょう。それは家族一人ひとりの役割分担を決めておくことです。次に家の内外の危険な個所をチェックして良く知っておくことです。また家具等の転倒や落下を防ぐために安全な配置をしておくことが大切です。そして災害の時の連絡方法や避難場所を確認しておくことです。また非常の時の持出品のチェックを定期的に点検しておきましょう。

防災マップとは、災害が発生した時に災害現象により影響が及ぶと想定される区域及び避難に関する情報を地図にまとめたものです。防災マップを常に防災意識の向上に役立てることは、地域のコミュニケーションのために大切なことです。

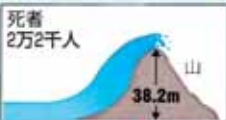
「津波防災」には

- 津波警報がでたらすぐ避難すること
- 津波は何波もやってきます。
- 津波は川を遡上します。
- 平坦な海岸地域では鉄筋の避難ビルへ逃げる
- こと。
- 地震のゆれが弱くても大津波の来ることがあります。
- 地震の感じがなくても大津波の来ることがあります。
- 津波は火災をよぶことがあります。

過去の巨大津波

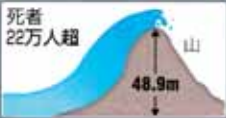
1896年

明治三陸大津波



2004年

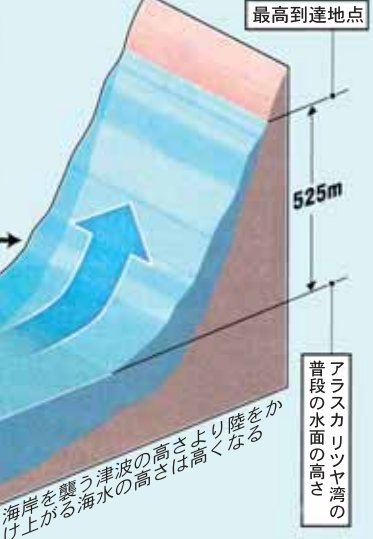
インド洋大津波



漂流物が大きな課題になった。東日本大震災では、大量の車や船や木造家屋が流れ、さらに他の建造物を破壊した

1958年

アラスカ リツヤ湾
山が崩れ海に突っ込んだため地震ではない



グラフィック・野口 哲平/The Asahi Shimbun

巨大津波とは

3月11日、東日本を巨大な津波が襲いました。近現代の先進国を襲ったものとしては最大規模と言えます。2004年のインド洋大津波では22万人以上が犠牲になりました。世界には過去、どんな巨大津波があったのでしょうか。

被害者数がはっきり分かっている中では、インド洋大津波が最大の津波被害です。世界中に「ツナミ」を伝えるニュースが飛び交い、研究者以外にはなじみが薄かったこの日本語が一気に国際用語になった、と言われます。

この津波の原因は、インドネシア・スマトラ島沖で04年12月26日に起こった巨大地震。海の岩板（プレート）が陸のプレートの下に沈み込みプレート境界が千キロ以上の長さわたってずれ、マグニチュード（M）9.1、観測史上3番目の巨大地震が発生しました。動いたプレート境界の長さ

は東日本大震災の地震の約2倍、エネルギーは1.4倍。地震の地殻変動によって海底が大きく上下方向に動いたため、巨大津波が発生しました。

この津波によって、すぐ近くのインドネシアで13万人の命が奪われ、千キロ以上離れたスリランカでも3万5千人、アフリカでも数百人が犠牲になりました。インドネシアでは、標高48.9メートルの峠を津波の水流が通り越したことも確認され、地震で起きた津波としては最高記録となりました。

インド洋大津波の前、地震による津波の最高の標高記録は、1896年の明治三陸大津波でした。このときの津波は、岩手県大船渡市三陸町綾里にあった白浜集落をのみ込み、38.2メートルの峠を越えたとされます。この津波で約2万2千人の命が奪われました。

この時の津波の特徴は、原因となる地震の揺れが震度2～3と、小さかったことです。後の研究で、この地震では震源がゆっくりと時間をかけて動いたため、揺れは小さかったと判明しました。しかし、地震のエネルギー自体はM8級と巨大で、海底で大規模な地殻変動を起こし、巨大津波を招いたと考えられます。

明治三陸大津波が「揺れが小さくても津波警戒は必要」という教訓を残したとすれば、60年のチリ地震津波は「揺れはなくても津波は来る」という教訓を残しました。チリ沖で世界観測史上最大M9.5の地震が起こした津波は、チリで2千人以上を死に追いやったばかりでなく、地球の裏側まで来て日本を襲い、138人の命を奪いました。

チリ地震直後の64年には、米国アラスカ州でM9.2の巨大地震が発生し、同州の太平洋岸に大被害を与えました。ですが、その後は2004年までM9級の地震はゼロ。04年のインド洋大津波は現代社会を襲った初の巨大津波として多くの課題を残しました。

代表的な課題は、津波の漂流物。多数の自動車や大型船が津波に押されて街を流れ、建物を破壊

し、さらに被害を広げる問題が明らかになりました。本格的な対策が望まれましたが、残念ながら東日本大震災には間に合いませんでした。今回も木造住宅が漂流し、さらに別の家を壊すという現象が起っています。今後、懸念される東海、東南海、南海地震に伴う津波に備え、真剣に検討すべき課題のひとつと言えます。

なお、地震が直接の原因でない津波もあります。1958年にアラスカのリツヤ湾という長さ11キロ、幅3キロの湾で起こった津波は、標高525メートルの山肌を駆け上がりました。原因は、高さ900メートルの岸壁の崩壊です。岸壁が湾になだれ落ち、その反動で巨大津波を引き起こしたのです。

岩壁の崩壊はM7.9の地震によるものでした。人口の極めて少ない地域でしたが、漁船乗組員2人が死亡したとされています。

局地的大雨から身を守るために

局地的大雨から身を守るための三要素

- ① 被害をイメージする力
- ② 危険を感じる冷静な心
- ③ 避難を決断する勇氣

局地的大雨では積乱雲（雷雲）によって急に強い雨が降り、降った雨が低い場所へ一気に流れ込むため総雨量は少なくとも十数分で甚大な被害が発生することがあります。どのような場所でどのような事故や災害が発生するのか、被害をイメージすることが重要です。

遊んでいる子供たちや、工事中の作業員は、周囲の状況の変化に気付きにくいものです。保護者や監督者は最新の気象情報を確認するとともに、空や川の変化の様子を観察し、危険を感じたら、すぐに避難するようにしましょう。